

恐れないうで、語り続けなさい

(使徒18・9〜10)

一、日本人と神

日本人には、キリスト者になるまで「神」という概念がないのだと思いません。ということは、「神って、ほんとうにいるのか」が、キリスト信仰に接した時の、最初の関門になります。こうして、聖書が語る神、すなわちイエス・キリストによって現された父・子・聖霊にしておひとりなる神を信じることにより、初めて「絶対者としての神」を意識するようになります。

二、「恐れないうで、語り続けなさい」

今年の標語は「恐れないうで、語り続けなさい」です。だれに語るのでしょうか。聖句の文脈では、すべての造られた者に、です。こうしてパウロは、安息日毎にユダヤ教の礼拝施設である会堂に入り、イエスがキリストであると語り、ユダヤ人を説得する伝道方法を探りましたが、行き詰まりを覚えたようです。ユダヤ人が反抗し、口汚くのものしたからです。その時パウロは言いました。「あなたがたの血は、あなたがたの頭上に降りかかれ。私には責任がない。今から私は異邦人のところに行く」と(使徒18・6)。この、躓きを味わった時、主がパウロに語られたのが、18章9節

の「ある夜、主は幻によってパウロに言われた。」「恐れないうで、語り続けなさい。黙ってはいけない。」と。ところで、主が語られた「恐れないうで、語り続けなさい。」ですが、新改訳は読点をもって一文にしています。句点で分けているのが、口語訳、新共同訳、フランシスコ会訳、聖書協会共同訳です。すなわち、「恐れないうで、語り続けよ。」です。私は、こちらが良いと思います。と言いますのは、「恐れないうで、語り続けなさい。」としてしまいますと、パウロは語ることに、すなわち伝道することに恐れを覚えていたかのようにも読まれてしまうと思うからです。句点で分けますと、「恐れないう。」ということばは、旧約の中にたくさん出てまいります。例えば「恐れないう。わたしはあなたとともにいる」(イザヤ41・10)等々です。パウロはユダヤ人ですから、「恐れないう」を聞けば、旧約の中にある様々な「恐れないう」が聞こえてきたと思われれます。ならば、「語り続けなさい。黙ってはいけない。」に、主が促される力を感じます。主のことばは、さらに続きます。10節です。へわたしがあなたとともにいる者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」と。「二文目のへあなたを襲って危害を加える者はいない」は、パウロにとって、さほど大したことではありません。殉教を覚悟で

伝道していますから。ですが、へわたしがあなたとともにいるは、パウロにとっても、私たちにとって大切なことばです。そして、最も重要なのは、この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」です。どんな人が、主イエス・キリストに心を開いて救われるのでしょうか。主が備えられた人です。例えば、紫布の商人リディアです(使徒16章)。彼女は「選ばれた人」と言うよりも、「穂が色ついて刈り入れられるばかりになっていった人」と言えます。そういう人が、時代と文化を超えて私たちの周りにはたくさんいます。「刈り入れられるばかりになっている人」は、表面的に見るなら、教会活動に反対し、キリスト教が大嫌いな人なのかも知れません。パウロ、後のパウロがそうでした。

三、主は幻によってパウロに言われた

最後にお語りするのは、「夢と幻を無視しない」ことです。聖書は、夢や幻について何と語っているのでしょうか。使徒の働き2章17節には、聖霊が降った時の出来事として、ペテロが、「これは、預言者ヨエルによって語られたこととです」と語り、へ神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」と言っています。幻や夢のすべてが主からもたらされると考えたら危険

なことですが、ある場合に主は、幻や夢を用いられます。

今回開いたテキストは、まさしく主が幻によってパウロに語られた箇所です。では、どのような時に、主は幻によって、ないしは夢によって語られるのでしょうか。それは行き詰まった時、あるいは新しい段階に導かれる時です。人生には行き詰まってしまふことがしばしばあります。聖霊の働きを知らなければ、自己啓発の本を読んだり、その手のビデオを見たり、人からの助言を求めたり、あるいは哲学書を読んだり、自分で学ぶのがむずかしければ、その手のビデオを見て学び、切り抜けようとするのでありましょう。神を信じる人は、今述べたものを否定することはありません。ただ、聖霊の働きを知っています。主イエス・キリストを信じる者は、決して行き詰まることはありません。なぜなら、聖書とおして神を知り、聖霊の働きを知っているからです。皆さん、キリストにある希望を語ってください。自分のことばで語ってください。主イエス・キリストを信じているなら、皆さんの内には聖霊が宿っています。主は、私たちが語ったことばを用いてくださいます。ですから「恐れないうで、語り続けよ。黙ってはいけない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから」を聞いて、歩んで行くことはありませんか。